

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [11783] IV型コラーゲン・7S《CLEIA》

受託開始日

- 令和3年1月4日(月)



Ⅳ型コラーゲン・7S《CLEIA》

脂肪肝から発症する肝の線維化は未治療の場合、肝硬変に進展し、1～8%が1年以内に肝がんを発症するといわれています。その主な原因として、ウイルスや飲酒によるものが多いとされてきましたが、近年では飲酒歴を伴わない非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) や非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の増加が問題となっています。

従来より、肝線維化や肝硬変の最も有用な診断指標として肝生検が用いられていますが侵襲的で検査リスクもあり、小さな組織片による肝全体の組織像の把握が困難な場合があることも指摘されてきました。

この度、新規に受託するⅣ型コラーゲン・7Sは非侵襲的な肝線維化指標として有用性が認められている検査です。

正常肝の類洞には基底膜は存在しませんが、肝線維化が進行すると分泌・蓄積され、血中に漏出します。Ⅳ型コラーゲンはその基底膜の構成成分ですが、3種類のドメインで成り立っており、その一つであるⅣ型コラーゲン・7SはN末端側の短い非コラーゲン性ドメインでジスルフィド結合を形成しているため、蛋白分解酵素の影響を受けにくく、血中で安定とされています。

また、Ⅳ型コラーゲン・7Sは肝線維化の早期から血中に認められ、さらに進行度も反映することから肝線維化の早期診断や肝硬変への進展、治療効果のモニタリングや予後判定などにも有用性が認められています。

検査要項

項目コード	11783
検査項目名	Ⅳ型コラーゲン・7S《CLEIA》
検体量	血清 0.5mL [容器番号：01番]
保存方法	冷蔵
検査方法	CLEIA
基準値	4.4 ng/mL 以下
所要日数	2～4日
検査実施料	148点* (「D007」血液化学検査「39」Ⅳ型コラーゲン・7S)
判断料	144点 (生化学的検査 (I) 判断料)
報告下限	1.0 ng/mL 未満
報告上限	1,200 ng/mL 以上
報告桁数	小数1位、有効3桁
備考	* : 「オートタキシン (ATX)」、「Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi)」、「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド (P-Ⅲ-P)」、「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

参考文献

大高木結媛, 他 : 医学と薬学 77 (5) : 785-792, 2020.